

穴栗で暮らし始めて

2020年の春、穴栗市で住まいを探していた時、何くれとなく世話をしてくださった市商工会会長の長田博さんが自宅の畑を案内してくれた。

もぎたての野菜はおいしかった。あの時の長田さんの一言「私も素人で分からないことばかりですけど、野菜は面白いですよ」に、私は「そうですよね」とうなずいたものの、さほど興味は湧かなかった。

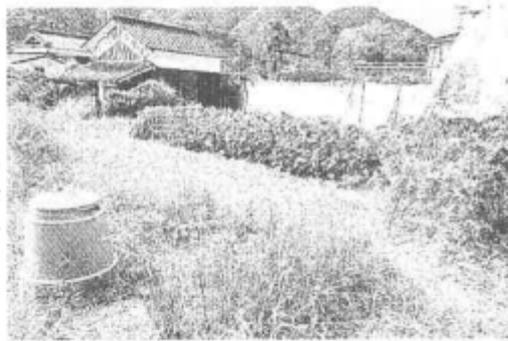
6月に畑付きの新居に引っ越すと、隣の久保さんが早速、耕運機で畝作りをしてくれた。だが家の掃除や本の整理に追われ、しばらく畑をほったらかしにしてしまっていた。

とはいえ、せっかくお隣さんが奇麗に整えてくれた畝を遊ばせたままにするのは失礼だろう。半ば仕方なく、野菜作りと

遊牧民農園 ①

は縁遠い不純な動機から始めた畑仕事だったが、いざやってみると「ハッ」とさせられるときめきが随所にあった。

豊かな実りとときめき



多彩な野菜が実る畑
「遊牧民農園」 穴栗市
山崎町宇野

ホームセンターで半額になっている種を買い、説明書きも斜めに読み飛ばして適当にまいただけのチンゲンサイが、知らぬ間に芽吹いて新緑色のじゅうたんをつくっている。何を植えたか忘れてしまった畝から顔を出した芽が、程なく四方に枝を伸ばし始め「あぁトマトだったか」と気づかされる。

「遊牧民農園」と名付けた畑の野菜たちは、想像以上の豊かな実りをもたらしてくれた。チンゲンサイや空心菜、トマト、オクラは秋も深まるころまで食卓をにぎわせ、大根や白菜は半年分の漬物になった。イチゴやスイカも多くはないが、きちんと実をつけてくれた。

畑仕事はまだまだ素人だが、「野菜は面白いですよ」という言葉の意味が少しずつ分かってきたように思う。

(大阪大招聘・客員教授 思沁夫すちんふ)